

星のやディナー、最高級鉄板焼き、
ミキモト、ゴルフ代と貢ぐ君、

米兵器 また「爆買い」で防衛予算は過去最大

トランプ・ファミリーと 安倍 首相の「密談」

ロシア疑惑再燃で北朝鮮に無関心なホワイトハウス
小池百合子失脚の陰に米国の影
100億円も値を上げられたグローバルホーク

の軍産複合体が肥えれば十分なんです。日本は巨額な装備品代をふっかけられても、買わざるを得ない貢ぎ外交です」

その結果なのか、防衛省が2018年度予算編成で概算要求した防衛費は過去最大の5兆2551億円に上る。防衛費を押し上げるのが、米政府から兵器を直接、購入する有償軍事援助(FMS)だ。

防衛省は18年度予算で弾道ミサイルを発射し続ける北朝鮮の脅威を理由に、弾道ミサイル防衛(BMD)に1791億円を要求。目標となるのは、「イージス・アショア」の設計費だ。イージス・アショアはイージス艦が搭載している迎撃ミサイルシステムを陸上に配備したもので、日本全土を守るには2基必要だという。ロッキード・マーチン社製で2基で1600億円と巨額になる。軍事ジャーナリストの清谷信一氏がこう指摘する。

「イージス・アショアの導入で、日本海で展開していく

るイージス艦は任務から解

放するべきなのに、防衛省

はSM3を搭載したイージ

ス艦を6隻から8隻態勢に

増やすとしているのです。

費用対効果のうえでも、合

理的な防衛計画を立ててい

るとは思えません」

グラマン社製のグローバ

ルホークも、購入を決めた

14年当初は3機で510億

円と見積もられたが、今で

は630億円まで値上げさ

れている。

軍事評論家の前田哲男氏

はこう指摘する。

「ミサイル防衛は限界がな

く、財政が逼迫するだけで

す」

そして11月に発足した第

4次安倍内閣の本丸はズバ

り、憲法改正だ。

政府筋は「安倍官邸は单

なる9条3項の自衛隊の明

記にとどまらず、『国際平和に貢献するため』とい

う文言を付記して、自衛隊

が海外で自由に集団的自衛

権行使できるという解釈

にしたい」と明言する。

安倍晋三首相が「蜜月の仲」を誇るトランプファミリーの来日で日本は上を下への大騒ぎ。だが、「おもてなし」の陰では武器の「爆買い」、憲法改正、野党分断などの日本改造計画が着々と進行していた。「北朝鮮危機の利用」という疑惑で一致した両首脳の「ビソヒソ話」の中身とは――。

「トランプはゴルフの話ばかり。ゴルフをやりたくて仕方ないようだよ。2月にフロリダで回ったときから、ずっと同じことばっかり言ってくるんだからさあ……」

安倍首相はトランプ米大統領の公式初来日直前、周辺にこう苦笑交じりに語つたという。

11月5日にはトランプ大統領が名指しでリクエストしたプロゴルファー、松山英樹選手を交え、埼玉県の霞ヶ関カンツリー俱楽部を貸し切りにして安倍首相ご一行がラウンドする。

ゴルフの間、昭恵夫人がメラニア夫人を誘つて真珠のミキモトなどを案内し、銀ブラするという。

さらには「日本の高級牛

安倍首相は拉致家族とともにトランプ氏との面会も演出している。蓮池透さんがツイッターで「意味がない。(略)これ以上横田さんを利用するな。かわいそだよ」と酷評したが、国際ジャーナリストの春名幹男氏が解説する。

「トランプ氏の拉致問題に対する言及は、政府が頼んで言つてもらつたのだろう。だが、トランプ氏が何を言つても意味はなく、日朝が交渉しないと現実的には何も進まない」

元外務省国際情報局長の孫崎享氏はこう言う。

「トランプ政権の安全保障政策はマティス国防長官ら外務省幹部はこう言う。軍部に丸投げ状態です。対北朝鮮強硬派といわれるボルトン元米国連大使でさえ、北朝鮮は脅威でも何でもない」とツイートし、実はお互い政権浮揚にこれといった打開策が北朝鮮以外にない、ある意味似た者同士。相はもはや貴重な存在です。

しかし、2人の蜜月が北朝鮮情勢でいい結果につながるとは限らない」

入で、日本海で展開するイージス艦は任務から解放するべきなのに、防衛省はSM3を搭載したイージス艦を6隻から8隻態勢に増やすとしているのです。費用対効果のうえでも、合理的な防衛計画を立てているとは思えません」

グラマン社製のグローバルホークも、購入を決めた

14年当初は3機で510億

円と見積もられたが、今で

は630億円まで値上げさ

れている。

軍事評論家の前田哲男氏

はこう指摘する。

「ミサイル防衛は限界がな

く、財政が逼迫するだけで

す」

そして11月に発足した第

4次安倍内閣の本丸はズバ

り、憲法改正だ。

政府筋は「安倍官邸は单

なる9条3項の自衛隊の明

記にとどまらず、『国際平和に貢献するため』とい

う文言を付記して、自衛隊

が海外で自由に集団的自衛

権行使できるという解釈

にしたい」と明言する。

前出の孫崎氏も「米国が求めるように自衛隊を海外派遣でくる環境づくりに北朝鮮の存在は絶好のチャンス到来だ」との見解を示す。総選挙後、在米日本大使館がまとめた内部報告用文書を本誌は入手した。

『改憲勢力が発議可能な3分の2を確保した総選挙結果は米国には大歓迎の状況だ。むしろ米国が意図して作り上げたとみていい。民進党を事実上、解党させて東アジアの安全保障負担を日本に負わせる環境が改憲により整う非常に好都合な結果を生み出した』

そして『日本が着実に戦争ができる国になりつつある』と分析。こう続く。

『米国には朝鮮有事など不測の事態が発生した時に、現実的な対応が出来る政治体制が整う必要があるたが、希望の小池百合子代表が踏み絵を行ったのは米国の意思とも合致する』

前出の孫崎氏は、16年6月に撮影されたラッセル国務次官補(当時)と森本敏

元防衛相、小野寺五典防衛相、前原誠司前民進党代表、林芳正文部科学相、西村康稔官房副長官、自民党の福田達夫議員、希望の党の細野豪志、長島昭久両議員、JICA前理事長の田中明彦氏らが安全保障について話し合った国際会議「富士山会合」の写真を示しつつ、こう解説する。

「米国の政策当局者は長年、親米の安倍シンパ議員や野党の親米派議員らに接触、反安保に対抗できる安全保障問題の論客として育成してきた。その結果、前原氏が民進党を解体し、同じく親米の小池、細野、長島各氏らが踏み絵をリベラル派に迫り、結果として米国にとって最も都合のよい安倍政権の大勝となつた」

安倍官邸は圧勝した総選挙で、いかにも日米同盟によつて北朝鮮問題が解決するかのような幻想を振りまいたが、先の在米日本大使館の報告書には「本音」と思われる記述もあつた。『むしろ、心配な点はイラ

ク戦争に向かつた当时と現在の朝鮮有事とでは、比べようがないほど米国民は関心がない。日本や韓国が(軍事)負担を負うことが確實にならない限り、米国は軍事行動には踏み切れないのではないか』

そしてトランプ氏を追いかけているのが「ロシア疑惑」だ。昨年の大統領選の際に介入した疑いが持たれ、ロシア側と共謀して選挙に介入した疑いが持たれているのだ。10月30日には、マナフォート元選対本部長らトランプ陣営幹部3人が起訴されたことが公表された。その一人で外交顧問を務めたパパドボロス氏は刑罰を軽減する代わりに捜査月末時点で33%と、就任以來最低を更新。就任以来人事をめぐる混乱が続き、今でも政府高官ポストの多くが空席のままだ。

米国でロビー活動を展開するシンクタンク「新外交イニシアティブ」の猿田佐世事務局長がこう語る。『高官が不在の部署ではトランプ氏による政治任用でなく、下からのたたき上げの職員が代行して実務を回

していますが、重要な決定を取っているのが「ロシア疑惑」だ。昨年の大統領選の際に介入した疑いが持たれ、ロシア側と共謀して選挙に介入した疑いが持たれているのだ。10月30日には、マナフォート元選対本部長らトランプ陣営幹部3人が起訴されたことが公表された。その一人で外交顧問を務めたパパドボロス氏は刑罰を軽減する代わりに捜査月末時点で33%と、就任以来人事をめぐる混乱が続き、今でも政府高官ポストの多くが空席のままだ。

米国でロビー活動を展開するシンクタンク「新外交イニシアティブ」の猿田佐世事務局長がこう語る。『高官が不在の部署ではトランプ氏による政治任用でなく、下からのたたき上げの職員が代行して実務を回

していますが、重要な決定を取っているのが「ロシア疑惑」だ。昨年の大統領選の際に介入した疑いが持たれ、ロシア側と共謀して選挙に介入した疑いが持たれているのだ。10月30日には、マナフォート元選対本部長らトランプ陣営幹部3人が起訴されたことが公表された。その一人で外交顧問を務めたパパドボロス氏は刑罰を軽減する代わりに捜査

期間で過半数の賛成を得ると弾劾訴追が決まり、上院で開かれる弾劾手続

裁判で3分の2以上の賛成があると、大統領の罷免が決まる。現

在は両院とも共和党が多数派だが、共和党議員の一部が中間選挙をトランプ氏で

は戦えないと判断し、弾劾賛成に回る可能性がある。

「こうした手続きに入る前に共和党指導部がトランプ氏を見限り、直接辞任をす

める展開もあり得ます。

「ロシア疑惑」の全面的な恩赦と引き換えにすれば、トランプ氏も受け入れるのではないか。72年の「ウォーターゲート事件」で辞任したニクソン大統領も、共

和党指導部の辞任勧告を受け入れて辞任し、後で恩赦を受けている(矢部氏)

ああ、情けない『アゲすぎ』のイバンカ夫婦も重要閣僚も出動

欧洲各国首脳がトランプ氏と一定の距離を置く中、安倍首相は「蜜月」の関係を築いてきたが、トランプ政権がひっくり返れば、こうした努力も水泡に帰す可能性がある。

「トランプ氏が失脚したら、安倍首相も『ファイア』

(首切り)されるのではなくいか? 長期政権になろうが、冷ややかな視線を浴びることに変わりはない』(前出の孫崎氏)

だが、安倍首相はそんな懸念もどこ吹く風だ。トランプ氏との「蜜月」を武器に来年秋の総裁選3選を確実にさせ、「当初の東京五輪勇退の意向から、21年9月の任期いっぱいまで政権を全うする」と周辺に強気を語っているという。

11月10日にも加計学園の獣医学部新設が認可され、安倍首相の「腹心の友」である加計孝太郎理事長が会見する段取りだという。

「森友問題は近畿財務局のキャリア官僚の在宅起訴で手打ちとし年内に両疑惑と

もに終息させるつもりです」(官邸関係者) そして18年中に国会で改憲発議、19年春には消費増税先送り表明、同7月に参院選と同日の改憲国民投票のシナリオを描いている。米国の共和党系政策シン

トランプ大統領本人に匹敵する注目を集めたのが、長女であるイバンカ大統領補佐官(36)の「ファーストドーター外交」だ。

父親より早い11月2日に来日したイバンカ氏は、周囲を女性警官などに警護され、帝國ホテルに宿泊。赤坂の料亭での夕食の様子を

クタンク勤務経験もある外交評論家、小山貴氏はこう怒る。『こんなときにはトランプ氏とのんきにゴルフをしている安倍首相自体、リーダーとして世界の嘲笑的です。安倍政権は日米同盟を堅持

するため、憲法9条をいじり改憲で自衛隊を海外派遣したいのでしようが、政策の優先順位が違う。国民生活無視の政策を続けるなら即刻辞めるべきだ。国民を馬鹿にするのもいい加減にしてほしい』

本政府が約57億円を支出するという「大盤振る舞い」を宣言した。イバンカ氏は「私の家族への素晴らしいおもてなしに感謝します」と挨拶した。

イバンカ氏はその後、河野太郎外相や野田聖子総務相、加藤勝信厚労相相手の閣僚と相次いで会談。

夜には大手町の高級ホテル

「星のや東京」で、安倍首相夫妻と共に創作フレンチを味わった。至れり尽くせ

りの待遇に、準備にかかわった政府関係者がほやく。

最高レベルの警護態勢で、

大統領が2人続けてまさに来

たようなもの。イバンカ氏

はいまいか。



東京(円内)に到着した安倍首相とイバンカ氏

前出の孫崎氏も「米国が求めるように自衛隊を海外派遣でくる環境づくりに北朝鮮の存在は絶好のチャンス到来だ」との見解を示す。総選挙後、在米日本大使館がまとめた内部報告用文書を本誌は入手した。

『改憲勢力が発議可能な3

分の2を確保した総選挙結

果は米国には大歓迎の状況

だ。むしろ米国が意図して

作り上げたとみていい。民

進党を事実上、解党させて

東アジアの安全保障負担を

日本に負わせる環境が改憲

により整う非常に好都合な

結果を生み出した』

そして『日本が着実に戦

争ができる国になりつつあ

る』と分析。こう続く。

『米国には朝鮮有事など不

測の事態が発生した時に、

現実的な対応が出来る政治

体制が整う必要があるたが、

希望の小池百合子代表が踏

み絵を行ったのは米国の意

思とも合致する』

前出の孫崎氏は、16年6月

に撮影されたラッセル国

務次官補(当時)と森本敏

のシナリオを描いている。

米国の共和党系政策シン

トランプ大統領本人に匹敵する注目を集めたのが、長女であるイバンカ大統領補佐官(36)の「ファーストドーター外交」だ。

父親より早い11月2日に

来日したイバンカ氏は、周

囲を女性警官などに警護さ

れ、帝國ホテルに宿泊。赤

坂の料亭での夕食の様子を

浴びることに変わりはない』(前出の孫崎氏)

だが、安倍首相はそんな

懸念もどこ吹く風だ。トラン

プ氏との「蜜月」を武器に

来年秋の総裁選3選を確

実にさせ、「当初の東京五

輪勇退の意向から、21年9

月の任期いっぱいまで政権

を全うする」と周辺に強気

を語っているという。

11月10日にも加計学園の

獣医学部新設が認可され、

安倍首相の「腹心の友」で

ある加計孝太郎理事長が会

見する段取りだとい

う。

「森友問題は近畿財務局の

キャリア官僚の在宅起訴で

手打ちとし年内に両疑惑と

見

る

よ

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い

い